

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

<編集発行>

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726
yoshidaben@gmail.com



新生児臨時特別定額給付金支給事業

新生児(2022.4.2-2023.4.1生まれ)の保護者に、一律10万円を支給する予算です。旧来と異なり、所得制限が無いのが特徴です。全額国費、つまり、国の予算(新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金)を使ったものです。総予算額は4億9343万7千円が見込まれ、約5000人の新生児を対象にするものです。



支給の理由は、コロナ禍等で物価高騰が生じ、ベビーフードやベビーカーなどの育児用品にも影響が及んでいるというものです。この支給に、誰も異論がある人はいないでしょうが、最近の物価高騰は特定の世代や階層に影響するものではなく、ほぼ国民全員に経済的負担増が生じています。

今回支給の原資となっている「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」は、新型コロナウイルスの扱いが感染症分類で2類から5類に変更になれば、その交付金自体の設定理由が無くなるほかありません。思うに、新生児への給付金支給は恒久的な施策とならない限り、新生児の増加にはつながらないでしょう。(写真は、他都市の新興住宅を私が撮影したものの参考です)

私学入学の動向と不登校の増大

今期定例会の一般質問のテーマで、表題のものをとり上げました。「私学入学」と「不登校」の課題は別問題としてとらえるべきものかもしれませんが、公教育の在り方を考える上で、並行して問題設定をしました。

「私学入学」の表題から、町田市内の小中学生で、私立学校にどれ位通っているのか、あるいは、小・中・高と6・3・3制ではなく、中高一貫の選択するケースが起きているのかの数値から見通していくことにしました。数字がわかっているので先に記しておきますが、町田市立小学校は選択しなかった児童が2.6%、同中学校を選択しなかった生徒が13.3%でした。この数値がどう変化するに注目しています。

もう一つは、「不登校」の課題です。私たちが検討できるのは、あくまで公立学校の児童・生徒の中で生じる「不登校」ですが、その解決、解消法が学校に戻ることが順当な方法か、それとも、学校には行かず「フリースクール」などに通うことを含めて容認(受け入れ)して、学校教育の在り方の選択肢を増やすのか、それこそがより今日的な課題ではないかという提案をしていきます。



◎町田市で、水耕栽培メロンの世界一決定戦を開催しよう!

○支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしています

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4 期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、
春季の第 51 期生を募集開始

インターン体験記②矢野 拓

越谷市農業技術センターのメロン栽培視察

今回、私は吉田議員と埼玉県越谷市が運営する農業技術センターを訪問し、職員の方々にお話を伺いました。農業技術センターには、ビニールハウスが全部で4つあり、主にイチゴとメロンの栽培や試験等が行われています。このような施設は、日本全国に40から50か所しかないそうです。今回、町田式新農法のシステムを使ったメロン栽培を行っていること知り、訪問させて頂きました。越谷市で新たにメロン栽培を始めた理由は、イチゴに続いて高収益が期待でき、たくさん収穫できるからだそうです。栽培のサイクルは、4か月で一株から平均30個で、糖度は15度から18度と高いそうです。

は、ビニールハウスの温度を常に18℃に保たないといけないそうです。外気の温度によってハウス内の温度が変化してしまうと、冬作の収穫が下がってしまう恐れが生じます。そのため、近くにあるゴミ処理場のボイラーから70℃の温水を頂き、暖房に活用しているということでした。

玉川大学4年生 矢野 拓 (第51期生)



(吉田追記)第51期のインターン生、矢野 拓さんの2回目のレポートです。今回は、町田シルクメロンの生産システム(町田式新農法)を導入した越谷市さんを訪問しました。市立農業技術センターの皆さんに大変お世話になりました。独自に、温度測定 of 自動記録装置を取りつけ、富士通と協同研究をされていました。また、メロン育成のために、炭酸ガスの発生装置を導入されており、町田式新農法メロン栽培を更に改良する意欲があふれていました。

越谷市議の菊地貴光さんも視察に同行



私は、そもそも町田市の民間企業が「まちだシルクメロン」を開発して、水耕栽培をしていることを知りませんでした。この技術をつかった越谷市のメロンには、つるがないことに大変驚きました。最後に、職員の方々に工夫をしていらっしゃる点について伺いました。メロン